

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームあけぼのⅢ ユニット2	評価実施年月日	平成20年8月15日
評価実施構成員氏名	千葉 佳代子 渡辺 直人 堀田 豊光 本田 章 伊東 智恵子 今野 真智子 遠藤 恵美 谷 けえ子		
記録者氏名	千葉 佳代子	記録年月日	平成20年8月29日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>開設時、全職員で地域周辺の特性を生かした理念を作った。</p>	○	現在の理念を更に追求し、地域と共存共栄できるグループホームとして成長していく。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>全職員が理念を常に意識できるよう、玄関や事務所に掲示している。また、ネームプレートに理念を記載し、常に携帯して確認できるようにしている。</p>	○	今後も、理念を忘れず、地域の一員として貢献できるよう努めていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居時、理念の内容を説明するとともに、地域住民には運営推進会議時に説明し、理解を得ている。また、ホーム内の要所に理念を掲示している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近隣、地域の方へは挨拶に徹し、立ち寄って貰えるように声をかけている。実際に数名の方が立ち寄って頂き、入居者とお喋りを楽しんで頂いた。</p>	○	近所付き合いの和を広げていけるように、今後も継続していく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域活動の参加として、春、秋の町内会清掃や近所の料理店での会食等も行い、地域との交流を深めている。</p>	○	入居者の入替わりがあり、ユニットの平均介護度が下がったため、より積極的に活動していきたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>定期的に町内清掃へ参加している。</p>	○	他にも入居者に合った活動を検討して、地域貢献に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>毎年、職員と共に、自己評価及び外部評価の必要性と意義の理解を深め、指摘の有無に関わらず全般的な向上を目指している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>現時点の運営推進会議は、グループホームの役割の理解を広めている状況で、地域住民との意見交換などは出来ていない。</p>	○	<p>運営推進会議の回を重ねる毎に、地域住民の参加率を増やし、積極的な意見交換ができるよう取り組んでいく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議以外でのコミュニケーションは取れていない。</p>	○	<p>今後、更に連携を深められるよう、他グループホームの取り組みなども参考にして実行していきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>実際に成年後見制度を活用している入居者がおり、職員は必要性を理解している。制度が必要な事案が発生した場合は、ソーシャルワーカーと綿密に調整できる体制はづくりができています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束委員会を設け、外部、内部研修により、職員に徹底し、虐待防止に努めている。</p>	○	<p>虐待は重大な課題であることを認識し、積極的に研修等に参加し、普及に強めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約内容を解かりやすく説明しながら、要所要所で不安、疑問が無い確認している。各説明の冊子に同意を得て、署名、捺印を頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情処理箱を設けているが、入居者からの意見は殆ど無い。日常のコミュニケーションで、不満や要望を聞くようにし、直ちに職員に徹底し、満足を得られるように対応している。また、独自の満足度調査を実施し、参考にしている。	○	今後も、利用者本位の運営が実現されるよう努力を継続していく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の定期報告及び面会時等を活用した報告も含め、常に報告し理解を得ている。	○	現在の報告要領を継続していく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケートの実施や苦情箱の設置により、意見や苦情等があがった際は、全職員で話し合い、運営の改善に反映している。	○	不満や苦情解決が施設をより良い方向に改善すること認識し、積極的に職員間で討議していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議にて職員の意見や提案を取り上げ、運営・業務改善を目指している。また、管理者と運営者で管理者会議を開き、各事業所の意見を反映できる場としている。	○	少しずつ職員の意見が反映されるようになっており、更なる意見の反映が期待されている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員には調整がある旨を徹底しており、必要となった場合は、直接及び電話連絡網により調整している。	○	不測事態発生時は全職員が協力し難局を乗り越えることを更に徹底していく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	当ユニット職員の退職者は殆ど無いが、人事異動の際は、各利用者に合わせて伝え方で、寂しさや不安の緩和に努めている。	○	ユニット内での退職者が無いよう、チームワークや勤務状態を円滑にすることを継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人職員評価表、2年目以上の職員の評価表を作成し、段階に応じた育成ができるように努めている。また、内部研修は教育委員会が主体となって進め、外部研修も各管理者の推薦により積極的に参加している。</p>	<p>○</p> <p>普段のケアの中で、職員一人一人の良さが発揮され、かつ職員同士で欠点を補い合えるようなチームを目指している。ミーティングなどで常に意識できるように伝えている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域包括センターの呼びかけで、地域の事業所の管理、計画作成者が集まり、『グループホーム研究会』が行われている。各事業所同士の意見交換がスムーズにできており、問題解決や業務改善に反映されている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>まとまった休憩時間の確保はなかなか難しいが、当日の勤務者同士で声を掛け合いながら少しずつ休憩を取るようになっている。勤務表作成については、各職員が辛いシフトにならないように配慮し、勤務希望や連休の確保に努めている。</p>	<p>○</p> <p>職員一人一人のストレスが溜まらないような配慮を、今後も運営者に働きかけていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員評価表などで、各職員の頑張りを運営者に伝える事ができている。職員の殆どが、当ユニット在職中に介護福祉士を取得し、常に向上心を持って職務に励んでいる。</p>	<p>○</p> <p>資格取得に関わらず、常に自己啓発に努めていく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前のアセスメント以外にも、訪問機会を増やして、話し合いや安心感を得られるよう配慮している。得られた情報は書面にして全職員に周知し、本人への理解を深めた上で受け入れができるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人同様、入居前の電話相談や不安の解消など、いつでも応じるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>アセスメントを通してニーズを求め、入居判定会議で他部門の意見も参考にしながら、多様な対応ができるよう努めている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前には、可能な限り本人にホームへ出向いて貰い、入居者や職員の雰囲気を見たうえで、本人が安心できる環境か否かを判断して貰うようにしている。おやつ時に来てもらうなど、入居者や職員と交流できる機会も設けている。</p>	○	<p>入居者との人間関係確立を優先するために、家族や医療機関と綿密に調整しながら、不安の解消に努め、早く安心を得るように進めていく。</p>
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>本人の話を聞きだすのみでなく、職員の日頃の生活状態や悩みのものをぶつけ、長年の経験や苦労した頃の思い出からアドバイスを貰ったり、指導されたりする関係を築いている。</p>	○	<p>心を開いて貰うために、上手に会話を進めていき、喜怒哀楽を更に分かち合うようにしていく。</p>
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人の心身の状態や近況を面会時には直接的に、または毎月の便りにより連絡し、日々変化していく状態を心配して貰ったり、安心して貰ったりしながら、共有関係を築いている。</p>	○	<p>入居者の情報はすべて家族と共有するため、更に連絡を密にして、変化がわかるようにしていく。</p>
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>入居者ともめている家族も実際にいるため、管理者を窓口にし、担当職員と他の職員の意思をひとつにし、入居者や家族との接触に努め、関係改善のための仲介に努めている。場合により、本人と距離を置いたり、接し方のアドバイスを伝えて家族の関係修復を図っている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの生活を大切に、通っていた美容室や親戚宅訪問、自宅付近のドライブなどを支援している。近隣地域以外の入居者への遠方の外出等は、家族の協力を得ながら行っている。</p>	○	<p>今後も、馴染みの場を大切に、より多くの家族や、地域に浸透できるよう、努力していく。</p>



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の会話で、行き違いが生じる場合は、聞き取りにくい言葉等の仲介や、話しのつながりを作ったりしている。孤立や仲たがいすることなく、利用者みんなが楽しく和気あいあいと生活できるよう、職員が環境の一部として配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院が理由で契約が終了した場合は、本人の状態確認やお見舞いを通して、家族の心への配慮をしている。利用者が亡くなって契約終了した家族にも、自由に遊びに来て貰えるように声かけし、時々来て頂いている。	○	今後も、契約を越えて地域の人間関係を大切にしていこうように努め、地域に根ざしたホームを目指して。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	殆んど意思表示を出来る入居者であり、意向を優先することを主眼とし、安全上問題が無ければ、困難状況においても本人本位を検討している。	○	家族が疎遠な入居者においても、本人の思いを家族に伝え、意向優先を目指していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各入居者の過去の生活やサービス利用の経過は、本人、家族から細かに教えて貰い、利用したサービス事業所からも、当時の様子を情報として把握し、現在の生活環境の中でどのように生かしていくかを検討、サービス提供に生かしている。	○	生育歴や過去の言動を知ることにより、本人の快、不快を理解し、心地の良い環境の提供に努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の過ごし方で一番重要な心身の健康状態を日勤・夜勤者が綿密にカンファレンスし、昼間帯における過ごし方や夜間帯の巡回の着眼としている。個人の記録を、1日の動きが解かり易い書式にし、本人の過ごし方や思っている事を時系列で把握できるようにしている。	○	今後も心身の健康状態を重視し、各利用者の方々の日々の過ごし方を見守っていき、カンファレンスの重要項目として、継続していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者の介護担当職員が本人や介護チーム内の情報を収集し、現在の状態を見極めた介護評価表を作成し、介護支援専門員が評価表を基に、家族や医療関係者等と話し合いそれぞれの意見等を反映した介護計画書の作成に努めている。	○	介護評価表と医療関係とのチーム関係を更に深め、家族の意見希望を織り交ぜながら入居者が安心快適に生活できる介護計画書を作成していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状態変化が見られるときは、暫定的にプランを変更し、期間を定めて評価している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録を個人ごとに作成し、日々の変化やケアの実践又は気付いた事項等を記録し情報に共有を図り、介護評価表や介護計画書の見直しに活用している。ケアプランに沿った記録を記載する欄と、日々のカンファレンスを記入する欄を設けている。	○	今後も個別の生活シートを継続し、日々のケアや実践更に入居時からの変化が分かるようにし、全職員が情報を共有し、正しい目で介護評価表や介護計画書が見直しできるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の希望による夜間の外出や家族の面会時の宿泊などは、他利用者の状況が許す限り行っている。今後、ショートステイを受け入れるために実践リーダー研修を代表スタッフが受け、準備に当たっている。	○	地域住人に向けて開かれたグループホームを目指して、多機能の可能性を広げていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防には、防災訓練や救命講習などで協力をお願いしている。	○	地域資源の活用を広げ、地域との密接な関係を築いていく。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者それぞれのニーズに合わせ、訪問看護や訪問リハビリなど利用している。また、訪問理美容や訪問歯科の利用もある。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括の『グループホーム研究会』を通して、事例検討などを行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	<p>普段どおりの生活ができ、楽しかったと思える終末期を送れるよう家族と共に支援していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>過去に住み替えをした際、早期から相互に連絡調整を行い、家族とともに下見をし、受け入れ態勢の確認や介助方法の実技指導等を行い、支障なく住み替えを行った。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に入居者の立場に立ち、個性を尊重した人間関係づくりを基本としている。言葉も入居者に合わせた言葉を使うように心がけている。記録管理は保管場所の管理を徹底している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>常に入居者の言動、表情の変化に目を向け、何を望んでいるかを考慮しながら、自己決定の尊重、話し合いを行っている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人の生活パターンを把握し、入浴、食事、外出等できるだけ希望を受け入れ、満足のできる生活支援に努めている。安全管理上支障がなければ、自発的な行動を尊重し、見守りを重視した支援を行っている。</p>	○	<p>センター方式の導入により、より深い理解が得られるよう努力していく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容を活用している。好む人、好まない人が居り、希望により行きつけや、行きたい美容室に送迎している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の殆んどが食事を楽しみにしているため、季節を意識した美味しい食事提供につとめている。入居者に裁断や味見を頼んだり、配膳や後片付けを共にこなったりして、充実感を感じていただくよう支援している。</p>	○	<p>今後も美味しい料理提供のため、入居者と共同作業を楽しみながら、自信回復、自己実現なども含めた満足感が得られるよう支援していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好を大切にし、不自由しないように努めるとともに、入居者家族の面会宿泊時、入居者とお酒を飲める場を提供し、家族との交流も図っている。	○	嗜好は人間の特権であることを認識し、今後も継続していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者によっては、最初オムツ使用の状態だったが、現在はオムツからリハパン、リハパンから布パン(パッド)へと移行したり、失敗の回数が減ってきている。各入居者それぞれの排泄パターンを把握し、支援している。	○	排泄はトイレでを合言葉とし、可能な限りオムツをつけないように努力していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	各入居者の入浴日を指定しているが、時間帯は、希望があれば、朝風呂や就寝前の入浴を楽しんでもらったり、女性職員介助希望者は女性職員が対応するなど、入浴を楽しめる支援に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	時間の使用は24時間自由であり、個々の生活習慣や体調を考慮し、安心快適な睡眠をモットーに支援している。	○	時間は入居者のものであることの認識を職員が更に深め、自由な生活スタイルを継続していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割は、あえて提供していないが、入居者の自発的な行動により、ユニット内の流れ作業が成り立っており、職員は見守っている。行きつけの喫茶店でお茶やビールを飲みながら、雰囲気を楽しむたり、店主や他来客と会話をすることで、楽しさや気晴らしを見出せるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金所持希望者には、家族と調整し、理解のうえで所持して貰い、買い物や喫茶店では自分で支払うように支援している。	○	家族が全面的に金銭管理していた入居者でも、ホームの暮らしの中で可能性が見出せれば、家族と調整して自己管理の支援を進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	健康状態と安全管理上支障がなければ、外出の希望はできる限り添えるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	近郊であれば他利用者とともに、出かけるようにしているが、遠方は家族対応をお願いしている。	○	家族とのコミュニケーションを密にし、遠方の外出に協力していただけるよう働きかけていく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は時間帯にもよるが、努めてかけられる状態にしている。電話を拒否する家族の場合は、伝えたい内容の確認をし、電話の代行を職員が行うなどして対応している。他、手紙の代筆なども行っている。	○	相手の都合を考慮したうえで、コミュニケーションの手段が奪われないように支援していく。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者訪問時は来客として迎え入れ、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。職員も、共にお茶を飲んだり、談話に参加したりしながら和やかな雰囲気にも努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設けている。職員も十分に学習した上で身体拘束の防止に努めている。	○	現在は、身体拘束の例は無いが、今後の入居者の重度化に向けて、身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室及び二階入り口は一切施錠をしていない。一階正面玄関については、夜間帯のみ、外部からの安全管理上施錠している。1、2階玄関は、開くと音が出るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個々の入居者の事故に繋がりそうな状況を職員が把握したうえで、一日の流れの中で、さりげなく観察し、事故になりそうと予測される場合には速やかに対応できるようにしている。入浴やトイレ介助の際は皮膚の状態や関節の動き等にも注意を払い、安全な入浴・排泄を心がけている。	○	事故発生率0%を目指して、インシデントレポートの提出と、問題の分析を積極的に行っていく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	共用の洗剤類や食品類は、ホームの倉庫に保管し、内服薬や消毒類、は、所定のロッカーに施錠して管理している。他、腐敗しない食品(嗜好品)や軟膏類などは、誤用、誤食、紛失などの防止のため基本的には職員が管理しているが、入居者個々の管理能力により、本人持ちにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各職員が入居者の事故に繋がりそうな状況を把握し、その対応策を考え支援している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員は普通救急救命講習を受けており、急変時に対応できる状態にしている。また、入居者の体調に変化のある際にはカンファレンスを行い、緊急対応の確認を行うこととしている。	○	定期的に継続的な救命講習を行い、技量の維持向上を図っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署員立会いの下、防火管理者の計画により、今年度第一回自衛消防訓練を八月初旬に行い、初期消火、消防への通報、職員への伝達と避難要領を訓練し問題点を検証した。地域住民の支援のお願いについては運営推進会議で行っている。	○	定期的な訓練の継続に努め、併せて地域の住人とも協力した訓練ができるよう、協力を呼びかけていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	事故に繋がりそうな状況等について家族に説明し、リスクがあることを認識して貰い、理解のうえで、抑圧のない日常生活を送ることの意義と対応策を話し合っている。	○	今後も、入居者の自発的な行動の尊重と、安全の確保について家族と蜜に話し合いをしていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日勤、夜勤者が主体となって、体調変化の早期発見に努め、定期訪問診療の際に、かかりつけ医に相談にしている。異変時は直ちに訪問看護及びかかりつけ医へ連絡し適切な指示を受けている。	○	今後も、入居者一人一人の体調変化を逃さないよう、日々の観察に努める。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりの服薬情報一覧表を作成し、全職員に周知徹底している。誤薬防止のために「朝・昼・夕」の個人毎の服薬配分ポケットを作成し、日勤帯で遅番勤務者がセットし、日勤者が確認するようにしている。服薬時も日勤者及び夜勤者が食後手渡しし、確実に服用を確認している。症状変化については、医療関係者に連絡し、適切な判断をお願いしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日排便確認を行い、状態把握に努めるとともに、便秘になりやすい入居者の水分補給や運動、下腹部マッサージ等を行うなど、働きかけと援助に努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時、就寝前及び毎食後の口腔ケアを自立、又は介助で行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスと嗜好を考慮し、全職員が交替で献立を作成している。ケアプランに特記が必要な場合は、食事形態、内容などを載せている。水分は各人の健康状態と日々の排泄状況を考慮し、日勤者が責任をもって支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員からの予防マニュアルを基準とし、職員は日常生活においても健康管理に努めている。	○	予防マニュアルの実践と職員による外からの菌の持込がないように注意喚起を継続していく。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎日近所のスーパーで購入し、保管は早番勤務者による冷蔵庫衛生管理と遅番勤務者による食材の賞費期限管理と二重のチェックで食中毒予防及び感染症予防に最善の注意を払っている。また、各種予防遵守事項については感染委員からのマニュアルを参考に対応している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関横には高さ4m幅5mにアサガオを植え、見事な花に通行人や近所の人にも感心を持ち、近寄って見て、話しかけてくる人や、中に入って種ができれば欲しいと希望する人もいる。	○ 住宅街の施設として、春から秋までは花があり、冬は除雪が綺麗にされていることを最低条件として、地域住民や通行人が納得し、訪れ易い明るい施設を目指していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	採光や金属音等に注意を払い、驚いたりすることがないように注意するとともに、玄関やホールには季節の野の花を飾り、四季の移り変わりを肌で感じて貰い、居心地良い空間づくりに工夫している。トイレやホールにオムツ交換時の不快な排泄臭がしないよう、気をつけている。	○ 今後も、ユニット入居者の状況に合わせて、適切な環境を整えていくよう、ミーティング等を活用して話し合っていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールから離れた場所にソファを置き、一人になったり、気の合う入居者で話できるようにしている。ホールのソファの向きを変えて配置し、各々好きな場所に居場所を置く事ができるように配慮している。	○ 継続して、状況により適切な環境を整えていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の飾り物や置物は、入居者及び家族の意見、希望を聞きながら行い、居住し易い空間づくりに努めている。入居の際に、新しい物を購入せず、馴染みの家具や食器を持参するようお願いしている。	○ 継続して、状況により適切な環境を整えていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこまめに行い、入居者の特性「暑がり、寒がり」を考慮しながら調整している。エアコンが装備されているが使用時には、室温が下がりにすぎないように注意している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、階段、トイレ、浴室に手摺を設置している。また、ホーム内の数箇所に椅子を置き、歩行訓練時や役割実施の際に休憩できるよう、安全に配慮したシンプルな環境づくりにしている。	○ 入居者の身体状態に合わせ、縦型の手摺が必要と思われる。運営者と相談し、今後設置を検討していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員全員が入居者個々の力を理解したうえで、混乱や失敗を起こさないよう、見守りと必要な援助を行い、自立した生活を送れるように努めている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物周辺は安全管理を最優先にし、花で困っている。今年は正面玄関はスロープ沿いにアサガオと側面歩道沿いから裏庭にかけて向日葵を植え、日光浴や散歩時には目を楽しませるように整備している。家庭菜園を作り、収穫を楽しんで貰っている。</p>	○	<p>毎年、菜園や花のある風景で楽しんで貰えるように努力していく。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②<u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①<u>ほぼ全ての職員が</u> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①<u>ほぼ全ての利用者が</u> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①<u>ほぼ全ての家族等が</u> ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)入居者にはほぼ自由な時間に希望する外出や、楽しみの提供を行っている。全職員が、入居者一人一人の個性や人格を尊敬し、尊重しながらケアにあたることができている。ユニット内の人間関係が良好で、離職者が殆ど居なく、チームワークがバランス良く取れている。日々のケアをユニット内から地域に広げられるよう、行動範囲や人付き合いの幅を広げていくことを目標に、各職員が、日々色々なアイデアを出し合っている。